

資料

Research Note



私たちの目指すガイド像 2015 in 霧島

Aiming to be an Ideal Geopark Guide 2015 in Kirishima

西谷香奈^{1*}・福島大輔²・蓮岡 真³・田畑朝恵⁴・大町由紀⁵・福辻京子⁶・古園俊男⁷・今井ひろこ⁸NISHITANI Kana^{1*}, FUKUSHIMA Daisuke², HASUOKA Makoto³, TABATA Asae⁴, OHMACHI Yuki⁵, FUKUTSUJI Kyoko⁶, FURUZONO Toshio⁷ and IMAI Hiroko⁸

1: グローバルネイチャークラブ 2: NPO 法人桜島ミュージアム 3: 磐梯山ジオパーク協議会 4: 伊豆半島ジオガイド協会 5: 島原半島ユネスコ世界ジオパーク認定ジオガイド 6: 南紀熊野ジオパークガイドの会 7: 霧島ネイチャーガイドクラブ 8: NPO たじま海の学校

1: Global Nature Club 2: Sakurajima Museum 3: Bandaisan Geopark Office 4: Izu Peninsula Geo Guide Association 5: Geopark guides of Unzen Volcanic Area UNESCO Global Geopark 6: Nanki Kumano Geopark guide association 7: Kirishima Nature Guide Club 8: NPO Tajima Marine School

2016年5月17日投稿, 2016年7月17日受理

要 旨

日本でのジオパークの活動が始まって以来、各地のジオパークでジオガイドの経験が積み上げられてきたが、これまで指針となるような文章は存在しなかった。そこで、全国でジオガイド実践やジオガイド養成を行っている者が中心となり、2015年の日本ジオパークネットワーク全国大会のガイド分科会において、全国のジオガイドと共に、ジオガイド活動やジオガイド養成の指針となる文章「私たちの目指すガイド像 2015 in 霧島」を作成した。その内容は、以下の8項目である。(1) 知識ではなく物語を伝える。(2) 「その土地ならではの」の物語を伝える。(3) 自分のジオパークだけでなく地球全体を伝える。(4) 正確な内容を、わかりやすい言葉で伝える。(5) お客様に応じた伝え方をする。(6) 興味を持たせる工夫をしながら伝える。(7) 状況を的確に把握し、安全管理を行う。(8) 常にガイド技術を高める努力を重ねる。

キーワード: ジオガイド, ジオツーリズム, 日本ジオパーク全国大会, アンケート調査, ワークショップ, 理想のガイド

Abstract

The Geopark guides across Japan have been gaining experience at their local Geoparks since the Geopark initiatives began in Japan; however, a guideline document for Geopark guides was never available. At the Geopark guide working group of the 6th Japanese Geoparks Network meeting in Kirishima Geopark in 2015, Geopark guides across the country compiled a document, "Aiming to be an ideal Geopark Guide 2015 in Kirishima" as a guideline for Geopark guide activities and training. The following eight points summarize the content: (1) Tell stories rather than just knowledge. (2) Choose original local stories. (3) Maintain a global perspective while talking about our own Geoparks. (4) Convey accurate information in an easy to understand manner. (5) Communicate flexibly depending on the guests. (6) Be creative in generating the interest of guests. (7) Grasp situations properly and control safety. (8) Keep on improving guiding techniques.

Keywords: geopark guide, geotourism, Japan Geopark Convention, questionnaire survey, workshop, ideal guide

はじめに

2008年に日本でのジオパーク活動が始まってから、8年が経過し、各ジオパークの魅力の「伝え手」として、ガイドの重要性は広く認識されるようになった。日本ジオパークネットワーク(以下JGN)の全国大会、研修会、地区大会では毎年、ガイドに関する議論が行われてきた。しかし「ジオパークにおける望ましいガイドとは何か?」についての明文化された基準がなく、各ジオパークでは、それぞれの方法でガイドの実践、ガイドの養成

が行われていた。そのため、全国各地のジオパークでは、お客様に対し、まだまだ知識重視の難しい説明が行われているところもあり、どのジオパークでも同じようにジオの魅力を楽しめる状態にはなっていないのが現状である。ガイドが顧客満足度をあげ、ジオパークの楽しさを広めることができれば、「他のジオパークにも行ってみよう」と思うお客様が増え、ジオパーク全体のイメージアップにつながり、経済効果を生むことができるだろう。その為には「望ましいガイド像」についての共通認識を持ち、それに向かったガイド養成、ガイド実践を進め

ていくことが必要である。そしてその「望ましいガイド像」についての共通認識は、全国のガイドが自らの経験を元に話し合い、ガイド自身の手で作られるべきものであると筆者は考えた。そこで全国のガイドに対しアンケートを実施した上で、2015年のJGN全国大会において2日間にわたり4時間半の議論の場を設けた。本稿ではその検討経緯、議論の内容と、最終文章である「私たちの目指すガイド像 2015 in 霧島」を報告する。この文章は、事前アンケートへの回答者と当日参加者を合わせ、延べ331名の意見の集約である。そして、最後に今後の課題を述べる。

全国大会までの経緯

JGNには、各ジオパークから選出された1～2名からなる活性化部会が設置されている。この部会の中には、専門的な議論を行うワーキンググループがある。筆者の1人である西谷は「望ましいガイド像」の明文化に賛同してくれる仲間を募り、2015年7月にガイドワーキンググループ（以下ガイドWG）を立ち上げた。メンバー募集では、西谷が面識のあるガイド実践者に直接声をかけたほか、活性化部会メンバーに対して希望を募った。途中参加も入れて、最終的には13名で議論した。

議論を始めるにあたり、西谷が、Global Geoparks Networkによるガイドライン（Anonymous, 2010）や古瀬（2014a, b）なども参考にしながら、ジオガイドにとって必要と思われる8項目の文章を作成した。この文章を以下、「叩き台」という。

ガイドWGメンバーはガイド実践者やガイド養成に関わる事務局が中心であったため価値観が似通っており、この叩き台の内容については「全く問題が無い」、「全てにおいて賛同」という意見が多かった。新たに加えたのは、今井による「ガイド自身も楽しむこと」という意見のみだった。

また、ガイドWGメンバーの数名から「全国大会に参加できないガイドの意見も聞きたい」という意見が出たため、全国のジオガイドに意見を聞くアンケートを実施することとなった。

西谷は伊豆大島ジオパーク事務局の臼井里佳氏の協力を得て、「叩き台」の項目毎に記述式で意見を聞くアンケートを作成した。そのアンケートを、9月9日にJGN加盟地域の事務局を通し、各地のガイドに依頼した。その結果、32地域144名から回答を得た。

9月には「全国大会のガイド分科会への参加人数が100名以上になるかもしれない」という情報を大会事務局より得て、分科会の初日は、「叩き台」の8項目につ

いて、グループに分かれて1項目ずつ意見交換し、2日目に全員で討議するスケジュールを検討した。また、各項目について意見交換をする際のコーディネーターをガイドWGメンバーが務めることを計画した。

10月に入り、ガイド分科会の参加人数が確定した時点で、各項目について、コーディネーターとなるガイドWGメンバーの担当者を決定した。担当者は、担当する項目のアンケート結果を、A4用紙1枚にまとめ、アンケート結果集約版を作成した。このアンケート集約版は、大会当日の検討資料として分科会参加者全員に配布した。また、JGNの事務局メーリングリストを通し、アンケート全文、集約版とも、各地のガイドへ渡るようにし、議論が現場に還元されるよう務めた。

2015年JGN全国大会ガイド分科会

分科会は2日間行った。参加者数は187名であった。分科会の内容は、以下の通りである。

1. グループワーク

10月27日（火）に、グループワークを行った。8項目毎に部屋に分かれ、アンケート結果集約版と「叩き台」を基に話し合い、「望ましいガイド像」の文章候補を作成した。各項目のコーディネーターは、大会に参加したガイドWGのメンバーが担当した。詳細は表1の通りである。なお、霧島ジオパークの谷口智隆、永友武治、須賀昭彦、佐藤潤子、原口憲太郎、遠竹美代子、松村幸和、東多佳道がサブコーディネーターとして加わった。

2. パネルディスカッション

10月28日（水）には、パネルディスカッションを行った。前日のコーディネーターがパネリストとなり、福島と西谷が司会を担当した。

各項目15分で、1日目の議論の経過と文章案を発表し、参加者全員で一項目ずつ議論した。時間が限られるため、意見がまとまらない時は多数決で決定した。10分間の休憩を挟み、前文と題名を議論し、その後自由に意見を出し合う時間を設けた。

3. 叩き台および議論の経過と最終文章

叩き台で示した8項目について、叩き台の文章、議論の経過、最終文章の順で以下に示す。

(1) 知識ではなく物語を伝える

a. 叩き台文章

細かい知識は忘れてしまうが、感動や物語は覚えてい

表1 2015年日本ジオパーク全国大会ガイド分科会グループワークの項目とコーディネーター

Table 1 Coordinators in subcommittee of geopark guide

項目	コーディネーター
1 知識ではなく物語を伝える	福島大輔 (桜島・錦江湾GP)
2 「その土地ならではの」物語を伝える	蓮岡 真 (磐梯山GP)
3 自分のジオパークだけでなく地球全体を伝える	田畑朝恵 (伊豆半島GP)
4 正確な内容を, わかりやすい言葉で伝える	西谷香奈 (伊豆大島GP)
5 お客様に応じた伝え方を	大町由紀 (島原半島GP)
6 興味を持たせる工夫をしながら伝える	福辻京子 (南紀熊野GP)
7 状況を的確に把握し, 安全管理を行う	古園俊男 (霧島GP)
8 常にガイド技術を高める努力を重ねる	今井ひろこ (山陰海岸GP)

る。地層や石、動植物、人の暮らし、風景などを一貫したジオストーリーで結びつけて伝えること。またそれが語れるように、研究者の協力も得て、ガイド自身の知識を深めること。

b. 議論の経過

ここでは「物語」の言葉について議論した。「物語」とは何かがわかりにくいし、「物語」は架空のもののようなイメージであるという意見が出た。最終的に、表題は「物語風」という言葉に変更になった。また「専門家だけでなく地域の人々の協力もいる」、「ガイド自身が楽しむことが大切」という意見が出た。

c. 最終文章

お客様は、専門的な知識のみでは忘れがちですが、感動や体験、物語などは覚えています。大地と人と自然のつながり（ジオストーリー）を自分の言葉で、楽しく、分かりやすく伝えます。また、それが語れるように、専門家や地域の人々の協力も得て知識に裏付けされた引き出しを増やし、ガイド自身も楽しみながら伝えます。

(2) 「その土地ならではの」物語を伝える

a. 叩き台文章

お客様が「お金を払う価値がある」と思うのは、その場所ではないと体験することができない物語。日頃からフィールドを歩き、地元の人々の話を聞き、お客様が興味を持って聞いてくれるような情報を集めること。

b. 議論の経過

「お客様」に抵抗感がある人が複数おり、主語を「子ども」や「参加者」などにしてはどうかという意見が出た。一方で「子どもでもお迎えするのでお客様が良い」という意見もあり、最終的にはパネルディスカッションの多

数決で「お客様」という言葉に落ち着いた。

また「お金を払う価値がある」に抵抗感を持つ人が複数いて、こちらは「参加する価値がある」という文章に変更となった。「集めた情報を整理し、自分の言葉に置き換えないと話せない」という意見もでた。

c. 最終文章

お客様が「参加する価値がある」と思うのは、その場所でしか触れられない感動的な体験や物語。日頃からフィールドを歩き、地元の人々の話を聞き、集めた情報を整理し、お客様が興味を持って聞けるように、自分の言葉で話せるようにします。

(3) 自分のジオパークだけでなく地球全体を伝える

a. 叩き台文章

自分のジオパークのみでなく、できる限り幅広く他のジオパークも学び、自分のジオパークを通じて地球全体の物語を伝えること。

b. 議論の経過

アンケートでは「お客様は地球のことまで知りたがっていない」、「地球全体なんてわからない」、「限られた時間では地球全体の物語までは無理」という意見が出た。一方で、グループワークでは、ジオパークガイドは、ジオサイトの解説だけでなく、今見えている景観がどうしてそうなっているのかを語り、地球を感じてもらい、保護保全の必要性を感じてもらうことがミッションであるという意見があり、その手段として「他のジオパークと時系列で並べて説明していくとわかりやすい」という意見と、「そのためには自分のジオパーク以外をガイド自身を知る必要がある」という意見が出た。

c. 最終文章

自分のジオパークだけでなく、出来る限り他のジオパークを学び、地球を語り、世界、日本、そして地域を語ります。日本中がジオパークになる中で、各地のジオパークを時間軸の中に置き換え語ると、お客様に伝わりやすくなるでしょう。

(4) 正確な内容を、わかりやすい言葉で伝える

a. 叩き台文章

学んだ知識をもとにその意味するところを、専門用語をそのまま使うのではなく、12歳の子どもや、地学の勉強は全く覚えていない大人でも理解できるようなわかりやすい言葉で伝えること。また、伝える内容を正確にするために、研究者と協力し、適切な表現を考えること。

b. 議論の経過

「12歳の子ども」と年齢を限定することに、違和感を持つ人が多かった。「地学の勉強は全く覚えていない大人」という言葉遣いに差別感を感じる」という意見が複数出た。また「専門用語とは何か?」、「学びたい人もいるから専門用語を説明した方が良い」という意見もあった。これらのことから「お客様の知識や興味に応じて、理解できるようなわかりやすい言葉で伝えます」という文章に変更となった。

「個人的に研究者と接触することは難しい」という意見がアンケートからも、2日目の会場からも出た。「お客様から学ぶ」、「一方通行で無くお客様とのコミュニケーションが大切」という意見は、アンケート、グループワーク共に聞かれた。「専門用語を正確なわかりやすい言葉にする作業は難しく、そのような言葉は全国のガイド皆と共有してほしい」という意見もあった。

c. 最終文章

伝える内容を正確にするために、専門家等と協力して適切な表現を考え、学んだ知識をお客様の知識や興味に応じて、理解できるようなわかりやすい言葉で伝えます。また他のガイド（ジオパーク）とも情報を共有していきます。

(5) お客様に応じた伝え方をする

a. 叩き台文章

お客様の個性（知識、経験、関心、出身地・居住地）をできるだけ把握して、関連づけて伝えること。インタープリテーションの技術を学び、お客様が自ら発見し、ともに共感し合えるようなガイド手法を考えること。

b. 議論の経過

「インタープリテーションはわかりにくい」、「言葉としてなじみがない」の意見に対し、グループワークでは

「案内人、扉を開ける人、通訳者」などに置き換える案が出たが、結局、今回は「インタープリテーション」は使用しないことに決定した。担当コーディネーターからは「今回は言葉としては消したが、ぜひインタープリテーションを学んでほしい」という発表があった。パネルディスカッション会場からも「インタープリテーションは大事」という声が複数出た。

「お客様の個性」という言葉は「お客様の情報」に変更した。情報の中身として「目的、居住地域（自分のジオパークと関連づける）、健康状態、要望」などがあがった。

議論の中でコーディネーターが印象に残った言葉として「地味パーク（世界遺産より地味、and 地球を味わうパーク）」、「お客様に『へー』と思ってもらえる」、「また来たいと思ってもらえるようなガイド」などがあがった。

c. 最終文章

お客様の情報を把握し関連づけて伝えます。お客様にあわせて、ジオパークをわかりやすく伝え、お客様が気づき、新しい発見をし、共感しあえるガイドを目指します。

(6) 興味を持たせる工夫をしながら伝える

a. 叩き台文章

身振り手振りや写真・動画、その他の小道具、歌、ゲーム等、様々な手法を用いて、お客様が楽しみながら理解してくれるよう工夫すること。景色を観察する際にも、音やニオイ、肌で感じる触感など、五感を利用する。

b. 議論の経過

最初に「前文」について話しあい、「基本となる指針があった方が良く、そこから自分の地域に合った内容に発展させていけば良い。文章を再認識しつつ、より良い方向へと発展させていくことが必要」などの意見が出た。この結果は、前文作成の議論の際の参考となった。身振り手振り、笑顔、ゲームなどを用いたガイド手法について細かい意見が出たが、文章が長くなりすぎるため今回は反映しなかった。

c. 最終文章

身振り手振りや写真・動画、その他の小道具、歌、クイズ等、様々な手法を用いて、お客様が楽しみながら理解できるように工夫します。景色を観察する際にも、音やにおい、肌で感じる触感など、五感を利用するとよいでしょう。

(7) 状況を的確に把握し、安全管理を行う

a. 叩き台文章

気象や自然現象、活動場所・地形、生物、お客様の状況等によって起こり得るリスクと、リスクに応じた安全対策や、事故が発生した場合の対処方法について学び、実践すること。

b. 議論の経過

お客様を案内するにあたり、万一に備えて保険に加入しておくことの必要性や、危険な環境（動植物、自然現象や気候、交通の状況など）に対する安全確保やお客様への注意喚起の必要性（お客様の体調も考慮し、ツアーの中止も視野に入れること）などが話し合われた。また、事前に下見をして情報を把握し、しっかりした計画を立てることや、救命技術等講習を受講したり、日赤救援チームと連携することなどにより、事故発生時の対応策を考えておくことが重要であるという意見が出された。

「各ジオパークで内容や状況が異なるので、それぞれに応じた設定が必要になる」、「このワークショップの目的は、意見交換によるガイドのスキルアップであり、文言作成にこだわらなくとも良い」などの意見もあった。

c. 最終文章

気象や自然現象、活動場所・地形、生物、お客様の状況等によって起こり得るリスクを予知予想し、リスクに応じた安全対策や、事故が発生した場合の対処方法について学び、実践することにしましょう。

(8) 常にガイド技術を高める努力を重ねる

a. 叩き台文章

お客様の関心を高め「楽しかった！」と言ってもらえるように、様々なガイド手法を学び、取り入れ、自らのガイド技術を高めていくこと。ガイド自身がまずは楽しむこと・自ら学ぶこと。

b. 議論の経過

「高めたいガイド技術」というテーマでグループワークを行い、高めるべきガイド技術にはどのようなものがあるかを議論した。その結果、お客様の安全を配慮し、安全管理をすること、会話のテクニックを身につけること、知識のバリエーションを増やすこと、伝え方を工夫すること、お客様への気遣い方を身につけること、人を愉しませる仕掛けを考えることなどの意見が出された。続いて「そのために、何をすれば良いか？」についてグループワークを行い、安全管理のために、あらかじめ下見をしておくことや天気予報を確認しておくこと、お客様の安全に常に配慮し安心してついて行けるような言葉遣いをすることや、他のガイドツアーに参加してガイド技術を学ぶこと、お客様にわかりやすく伝えるためにクイズ形式などで工夫して話すことや、専門用語を自分の

言葉に置き換えて話すこと、お客様とのコミュニケーションを図るために、時事問題に関心を持って話題を作っておくこと、明瞭にポイントを絞って説明すること、質問しやすい雰囲気を作ること、コミュニケーション能力を向上させること、お客様に「体験」させること、お客様についての事前リサーチを行っておくこと、お客様に声かけをすること、など様々な意見が出た。

c. 最終文章

常に安全に配慮し、お客様の関心を高め「楽しかった!」、「また来ます」と言ってもらえるように、様々なガイド手法を学び、取り入れ、自らのガイド技術を高めます。ガイド自身がまずは楽しみ、自ら学びます。

(9) 文章表現

アンケートの8項目において文章全体で「強制されている感じがする」、「これを読んで『ガイドをやりたい』」と思えるような文章にしてほしい」という指摘があった。そこで、「～していきます」のような、ガイド自身の意思が感じられる言葉に変更した。

4. 前文と題名

8項目の最終文章について議論したのち、前文と題名について議論した。

(1) 前文

a. 叩き台文章

ジオパークを広く一般に広めるためには、お客様に、目の前の風景の奥にある物語を楽しんでいただき、「地球ってすごい」、「また来たい」、「もっと知りたい」、「他のジオパークにも行きたい」と思ってもらえることが重要です。そのために、私たちは以下のことに留意してガイド活動を行います（または、ガイドを養成します）。

b. 議論の経過

既に8項目で細かく出ているので、前文はシンプルなもので良いという意見で合意した。

c. 最終文章

ジオパークを多くの人に知ってもらうために、お客様に目の前の風景の奥にある物語を楽しんでもらいます。そのために、私たちは以下のことに留意して、ガイド活動を行います。

(2) 題名

a. 叩き台

理想のガイド像（仮称）。

b. 議論の経過

題名の候補として、会場からは以下のような案が出された。

- ・ジオパークガイドとは 2015
- ・私たちのめざすガイド像 2015
- ・私たちが目指すガイド
- ・私たちに求められているガイド
- ・目標とするガイド像

今回の8項目は現時点でのものであり、今後も継続、改良していくべきという意見が出た。最終的に多数決で決定することとし、題名は「私たちのめざすガイド像 2015 in 霧島」とした。

まとめと今後の課題

分科会では多くのガイドから「お客様から学ぶ」、「ガイド自身を楽しむ」、「自分の言葉でわかりやすく語る」、「知識に裏付けされた引き出しを増やす」などの文言が出てきた。これらは、ガイドがお客様と接する中で学ぶことができる内容であり、それだけガイドが経験を積んできたことの証であろう。

それと同時に「物語やインタープリテーションという言葉がわかりにくい」という意見が複数あった。知識の一方的な押し付けではなく、お客様の関心を引きだし、「ジオ」をわかりやすく、楽しく伝えるためには、インタープリテーションを学び、知識を元にした物語作りのトレーニングを行う必要がある。これらの言葉に対して「わかりにくい」という意見が複数出てくるのは、ガイド養成講習が知識中心に行われており、「ジオを楽しく伝えるための技術」を学ぶ機会が無いためと考えられる。

また「地球は難しくて語れない」という意見もあった。「地球を語る」という言葉をどのように理解するかにもよるが、筆者は他のジオパークを学ぶことが「地球」を学ぶことにつながると考える。日本各地のジオパークは、それぞれ地球の営みを実感できる個性的な物語を持っている。最もお客様と接するガイドが、自分の所だけでなく、他のジオパークで見られる地球の営みを学び、「地球」という目線で「ジオ」を楽しめれば、ジオパーク全体の魅力をお客様に伝えることもできるだろう。各ジオパークでガイド養成の際に、インタープリテーションと共に、他のジオパークや日本列島、地球全体を学ぶ機会を作っていくことが望まれる。

ガイドが「正しい知識を自分の言葉に置き換えて、わ

かりやすく伝える」ためには、専門家の協力が必須であるが、この協力体制が整っていないジオパークがあることも明らかになった。各ジオパークにはそれぞれの事情があることと思われるが、今後何らかの方法でこれらの課題を解決していかなければならない。

「ガイド同士が情報を共有出来る仕組み作り」に対する要望も複数出された。これについても今後、何らかの仕組み作りが必要であろう。

ガイド分科会の参加者の中からは「言葉ではなく、もっと実践的なことをやりたい」、「参加すれば勉強になるのかと思ったら、自分たちで考えなければいけないと知り、驚いた」等の声も聞かれた。今後は、ガイド経験別の、より実践的なプログラムを考えていく必要があるだろう。

アンケートの中には、「叩き台」に挙げられた項目に、「ガイドの心得やホスピタリティ」、「保全に対するガイドの関わり方」、「他地域との連携、交流」等の項目を追加してはどうかという意見もあった。今回は時間がないため議論しなかったが、これも今後の課題である。

最後に

筆者は、全国のガイドが意見を出し合い「私たちの目指すガイド像 2015 in 霧島」を作成できたことを嬉しく思っている。既に複数のジオパークで、この文章に対する勉強会が行われている。これからも多くのジオパークで、これを活用してのガイド実践、ガイド養成の実施が望まれる。今後、ガイドの実践とガイド同士の情報交換を重ね、継続して「目指すガイド像」のバージョンアップを図っていきたい。

謝辞

アンケートの実施にあたっては、全国のジオガイドの皆様や事務局の方々にお世話になった。アンケート作成の際には伊豆大島ジオパーク事務局の臼井里佳氏にお世話になった。そして分科会に参加した皆様からは多くの貴重なご意見をいただいた。大会に参加できなかったガイドWGのメンバーからも、アドバイスを受けた。また、会場の霧島ジオパークの関係者の皆様には分科会の実施に関してご協力いただいた。執筆にあたり、日本ジオサービス株式会社の目代邦康氏、おおいた姫島ジオパーク推進協議会の堀内 悠氏に、多大なるご指導をいただいた。心より感謝申し上げたい。

文 献

Anonymous (2010) Guidelines and Criteria for National Geoparks seeking UNESCO's Assistance to join the Global Geoparks Network (GGN). UNESCO. <http://www.unesco.org/science/earth/doc/geopark/2010guidelines.pdf> [Cited 2016/3/1]

古瀬浩史 (2014a) インタープリテーションとは. 津村俊充・

増田直広・古瀬浩史・小林 毅「インタープリター・トレーニングー 自然・文化・人をつなぐインタープリテーションへのアプローチ」ナカニシヤ出版, 2-5.

古瀬浩史 (2014b) インタープリテーションのプログラムを計画する. 津村俊充・増田直広・古瀬浩史・小林 毅「インタープリター・トレーニングー 自然・文化・人をつなぐインタープリテーションへのアプローチ」ナカニシヤ出版, 138-149.
